

因を解明要因としている。これだけでは、言うまでもなく不十分な説明である⁹⁾。こういう点こそわれわれはソヴェート経済学者から説明をききたいのである。だが、著者は、本書の該当部分で、進んだ農業機械の採用の事實を事のついでにあげているにすぎない。本章を読みおわって、わたくしの讀後感は、甚だすっきりしないものがある。そういう意味では 1922—24 年の幣制改革をとり扱ったアトラスの書物¹⁰⁾よりも、遙かにあっけないものである。それは 1947 年のソヴェート経済が社會主義的に單一化された経済だから複雑な説明をすべき何物もないといったり、数字の發表上の困難をいうのでは辯解が見つからないところの、著者自身の未熟さの故であろう。

以上のわたくしの評言は、通貨改革後のソヴェート経済の發展を述べた第 4 章についても、改革が國民の福祉に及ぼした影響を述べた第 5 章についても、同様に、あてはまる。第 6 章は表題のテーマを取扱ったあとで、(86 頁以下において、) 東歐諸國における戦後経済および通貨措置を略述している。もはや紙數もつきたので細目に

9) 言うまでもないことであるが、私は副島氏に不満を述べているのではない。説明のための十分なデータが缺けていることを言っているだけである。——以上念のため。

10) З. В. Атлас. Очерки по истории денежного обращения в СССР (1917-1925). Госфиниздат, 1940. (邦譯ゼー・ヴェ・アトラス『ソ連邦貨幣流通史研究』東亞研究所 1943 年 8 月)

はたちらない。わたくしがさきに挙げたグロトコの書評は、貨幣論および爲替理論上の興味ある諸問題を提起しているが、ここで、くりかえす必要も餘白もない。ただ、わたくしの書評の結びにかえて、彼の書評の結びの言葉を、以下に、譯しておく。——「重要なテーマの解明において著者は多くの理論的誤謬や混亂に道を空けた。それ故にこそ、わが國の讀者は本書に不満であり、ソヴェートの經濟学者達が、マルクス・レーニン主義理論にもとずいて……ソ連邦における貨幣流通の諸問題の全面的解明を與えているところの、新しい勞作を發表することを期待しているのである。」¹¹⁾

この評句は、大體において、そのまま、わたくしの書評の結尾にしてもいい。ただ、われわれソ連圏外のソヴェート經濟研究者にとって、本書は、ソ連邦外の文獻では與えられない第 1 次的なデータの供給源としての意義を持っている。現在のソ連邦文獻における「ほとんど完全に近い数字の燈火管制」(シュワルツ)¹²⁾にもかかわらず、「本書の中には多くの實際的統計的資料が利用されている。」(グロトコ)¹³⁾からである。

1951.8.15.

11) Н. Гродко, там же, стр. 105

12) Harry Schwartz, On the Use of Soviet Statistics, *The Journal of American Statistical Association*, Vol. 42, No 239, Sept. 1947, p. 401.

13) Н. Гродко, там же, стр. 99.

チャブキン編

『チェコスロヴァキアの

第一次經濟發展五年計畫』

—Первый пятилетний план развития народного хозяйства Чехословакии, Перевод с чешского Р. П. Разумовой, Предисловие Н. К. Тяпкина, 1950 Москва.

岡

稔

I

東ヨーロッパ諸國が資本主義の陣營を去って、社會主義の建設に向ってからすでに 6 年あまりの期間が経過した。その間、これらの諸國においては、1917 年以降のソヴェート・ロシアに生じたのと本質的に同一の變化が生じ、本質的に同一の經濟的發展が行われてきた。したがって

資本主義から社會主義への移行に関する人類の歴史的經驗は以前に比べてはるかに豊富になったのであり、このことは社會主義經濟學あるいは計畫經濟論にとってきわめて重要なことである。すなわち、我々は種々異った環境の下における社會主義建設の經驗を相互に比較することができるようになったし、また社會主義國相互の關係(社會主義的國際經濟)という全く新しい問題領域が開

かれたからである。

東ヨーロッパ諸國の政治制度については、戦後わが國においてもかなり紹介され、論議されたけれども、東ヨーロッパ諸國の經濟發展、計畫經濟の狀況については、資料の不足のために十分にはしられていないようである。現在これらの諸國は大體において戦後の短期復興計畫を終了して、長期建設計畫に入っている。本書は東ヨーロッパ諸國の中でも特殊な地位を占めるチェコスロヴァキアの五カ年計畫(1949~1953年)に関する基本的資料を収めたものであり、五カ年計畫法の全文と同法に関するザポトツキーの解説、およびチャプキンの序文が収録されている。

内容目次：—

I 序文(チャプキン)

II チェコスロヴァキア共和国の第一次經濟發展五カ年計畫法の解説(ザポトツキー)

1. 二カ年計畫の實績とチェコスロヴァキアの第一次五カ年計畫のための諸前提條件の造出

2. 五カ年計畫の基本的課題

3. 生産計畫

4. 人民の物質的・文化的生活水準の向上

5. 労働力バランスと物財バランス

6. 五カ年計畫による各地方の發展

7. 計畫化の課題

8. 五カ年計畫法の法律的側面

III チェコスロヴァキア共和国の發展のための第一次五カ年計畫に関する 1948年10月27日附の法律

第一編 第一次經濟五カ年計畫の目的と内容

第二編 生産の發展

第三編 人民の物質的・文化的生活水準の向上

第四編 五カ年計畫遂行のための前提條件

第五編 各地方における五カ年計畫の課題

第六編 五カ年計畫の遂行

第七編 五カ年計畫の施行についての訓令

第八編 一般的補足的規定

II

周知のように、戦後チェコスロヴァキアにおいては廣汎な階層を含む民族戦線が結成され、民族戦線政府の手によって土地改革、重要産業の國有化等の改革が行われた。土地改革も國有化政策もあまり徹底したものではなく、かなり微温的なものであったが、とにかく國民經濟にたいする決定的な支配力は有産階級の手をはなれて人民民主主義國家の手に移行した。したがって、チェコスロヴァキアは 1947 年にはやくも計畫經濟への移行を開

始することができた。尤も二カ年計畫(1947年1月1日~1948年末)は全國民經濟的規模での計畫化ではなくて、國民經濟中の決定的な部分を抱括するにすぎなかったし、また長期展望計畫ではなくて短期復興計畫の性格をもつものであったけれども、ザポトツキーが述べているように、この期間中に五カ年計畫の實施に必要な諸前提條件が作りだされたのである。

國民經濟を戦前の水準(以下において戦前の水準という場合には、戦前の最高水準 1937 年をさす)にまで復興させるという二カ年計畫の目的は、工業に関してはいちおう達成された。すなわち、1948年5月の工業生産指數は 105.2(1937年=100)に達した。しかし若干の部門(例えば、農業、建築業、食料品工業、等)において計畫目標が實現されなかった結果、人民の生活水準を戦前の高さにもまで回復することはできなかった。ザポトツキーは、一部の産業において計畫目標が達成されなかった原因として、1947年の旱害のような自然的原因もあったことを認めているけれども、主たる原因は制度的なものであったと述べている。すなわち、二カ年計畫の遂行實績を詳細に検討すると、生産の社會化が進んでいた部門においては計畫遂行率が高く、社會化の遅れていた部門、私企業が優位を占めていた部門においては、遂行率が低いことがみられるのである。

國有化企業が工業全體の中で占める比重は、1948年初頭には約 75%に達していたけれども、なお約 9000 の資本主義的大・中企業が残存しており、若干の部門においては私企業が大きな力をもっていた。(例えば食料品工業の 47%、織物工業の 46%、卸賣商業の三分の二、が私的企業家の手中にあった。)また、農業においては一般に小商品生産が支配しており、スロヴァキアの農地改革は殆んど全く行われていなかった。二カ年計畫はこのような環境の下に實施されたのであり、當然、資本家的勢力の側から激しい抵抗が生じた。この抵抗は、投機、闇市場、資本の國外逃避等の形をとって現われ、若干の部門の計畫遂行にたいして重大な打撃を與えた。資本逃避は 1947 年だけで 2 億 5000 萬クローンに達した、とザポトツキーは述べている。また建築資材は投機の對象となり、建築部門の計畫目標達成が不可能にされた。これらの部門の計畫目標が實現されなかった結果、外國から豫想外に大量の輸入を行う必要が生じ、その代價として計畫遂行率の高い産業の生産物を輸出しなければならなくなり、ひいてはこれらの部門の生産物のうち國內において利用しうる部分が減少し、經濟活動の全般的阻害が生じたのである。

二カ年計畫の遂行をめぐる、計畫化原則と資本主義的

利潤追求原則との争闘（ザポトツキーはこれを資本家分子のサボタージュと呼んでいる）は、チェコの人民民主主義革命の直接の継続であり、また社会主義への前進の起動力であった。すなわち、1948年のいわゆる二月事件の背後には二カ年計画をめぐる闘争が横たわっていたのであり、二月事件はこの矛盾の前進的解決であった。1948年2月の保守政党的反政府運動が失敗し、逆に統一戦線の力が強化されると、これを契機としてこれまで不徹底に止っていた一連の改革が急速に推進された。土地私有は50ヘクタールまでに限定され、従業員50人以上の企業はすべて国有化された。工業における社会主義セクターの比重は95%に高まり、大商店はすべて国有化された。

二カ年計画によって国民経済が一應、戦前水準にまで復興し、二月事件を契機として人民民主主義国家の力が強化され社会化セクターの比重が高まった結果、チェコスロヴァキアは長期建設計画に進むことが可能になった。ソヴェト同盟が革命後十年間に及ぶ迂曲曲折を経てはじめて第一次五カ年計画実施の運びに至ったのと比較すれば、東欧諸国はソヴェト同盟の経験に学び、その助力をうけることによって、はるかに平坦な途を歩んだといえることができる。しかしチェコスロヴァキアの場合にもやはり、社会主義的發展の軌道が確立するまでには、かなり複雑な一つの過渡期が必要であったように思われる。

III

五カ年計画の目的は國の經濟を全般的に發展させて、人民の生活水準を高め、社会主義へ移行することにあると規定されている。この場合、決定的な要因は生産力の發展であり、生産力の發展の鍵は國の工業化であり、しかも生産手段生産部門の擴大強化である、ということはソ同盟の歴史的経験の教えるところであり、この點に關しては東欧諸国の場合にも變りはない。しかし、チェコスロヴァキアは戦前においてもすでに高度に工業化された國であった。（工業對農業の比率は7對3。これに反して、1913年當時のロシアではこの比率が4對6、ブルガリアやルーマニアは2對8）。したがって、チェコの場合には問題は單なる工業化ではなくて工業の構造變化の問題として現われる。元來、東ヨーロッパ諸國の經濟は英・米・獨等の有力資本主義國の支配下にあつて、多かれ少なかれ半植地的な一面的・畸形的發展をとげていたから、この舊い構造を破壊して戦後の新しい情勢に適合した構造を建設することが必要なのである。チェコの場合には、この構造變化は低賃銀を基礎とする輸出用消費財生産から生産財生産へ重點を移すことに歸着する。

ゴトワルトはつぎのように述べている。「オーストリー・ハンガリー帝國の時代に形成されたところの、そしてその當時の要求に適應していたところの、チェコスロヴァキアの經濟構造を變更し、それを我々の時代の新しい政治・經濟的諸條件に適合させることが必要である。つまり、チェコの工業を、飢餓賃銀のおかげで外國市場で競争することのできた部門（手袋、玩具等の生産がそうであり、ガラス工業や織物工業もある程度までそうであった）から、金屬加工業や特に機械製作工業のように外國市場に生産物の販路をみいだす特別の好條件のある部門に轉置することが必要である。」

五カ年計画は1953年の工業生産指數を157（1948年=100）に高めることを目的としているが、その際、生産手段生産は1948年の66%増、消費財生産は1948年の50%増に豫定されている。最も對照的なのは金屬加工業と織物業であり、1953年の計畫目標額と戦前水準との比は、前者においては100對230、後者においては100對145である。

チェコスロヴァキアにおける重工業建設計画の特徴は、それが單に一國社会主義建設の見地からではなくて、より廣い國際的視野の下に行われていることである。ザポトツキーはつぎのように述べている。「何よりもまず第一に重機械製作部門の再建が豫定されているのは、ただ單に我國の國內的必要のためだけではなくて、計畫經濟を営んでいる諸國の生産力の發展と復興を促進するためでもある」と。つまり、チェコの工業構造の變更は、ソ同盟ならびに東欧諸國の社会主義建設の一環であり、社会主義的國際分業—國際協力の一つの現われである。戦前の東ヨーロッパにおいては、民族的對立と經濟的割據主義が支配していたのを想えば、甚だしい變化といわなければならない。

本年二月、チェコスロヴァキア政府は過去二年間の計畫遂行實績に鑑みて五カ年計畫の目標をかなり大幅に引き上げた。改訂プランによれば生産手段生産部門擴張の方針は著しく加速化されたようである。

1948年=100とした指數

	原計畫	改訂計畫
總工業生産	157	192
生産手段生産	166	188
消費對象生産	150	150
金屬加工業	193	231

なお序でに附言すると、工業において消費財生産から生産財生産への移行が行われると同時に、農業においては農耕から畜産への移行が豫定されている。（317頁へ）